

令和3年度学校関係者評価票

学校名：歯学部歯科技工専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検・評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

令和3年度 専門学校自己点検・評価項目	令和3年度 専門学校による自己点検・評価結果		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見	取組 評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組 評価
評価項目① 多様な能力が習得できるように、アクティブ・ラーニング等の手法を取り入れた授業が展開されているか。	単位制カリキュラムへの移行に伴い、ワープロ、表計算およびプレゼンテーションソフトの基本操作を学ぶ情報科学を開講した。さらに、その応用として歯科理工学実習では、各自が表計算ソフトを用いてデータを整理し、これをもとにグループ内で討論した成果を、プレゼンテーションソフトを用いて発表している。このように、生徒自らが主体的に考え、能動的に学習することができる授業を展開している。	B	卒業後、社会人としてのスキルを学ぶ事に取り組んでいる。	・ワープロ、表計算およびプレゼンテーションソフトの基本操作を学ぶ情報科学を開講。生徒自らが主体的に考え、能動的に学習することができる授業を展開。 CAD/CAM, スポーツ歯学, 顎顔面補綴の修学。 ・各ソフトの仕様及び操作方法を習得させていることは良い。	現在、歯科技工はCADソフトが出来る人材が求められている、歯科用ソフトの習得も進めてほしい。	学生の能動的な学習を促すためにも、プレゼンテーションでの発表は非常に良いと思う。	A
評価項目② 学業成績不振が要因で留年、休学、退学する学生の減少に向けた対策がとられているか。	学生の授業に対する理解度をより一層深めるために、平常試験およびその解説を実施している。平常試験の成績が不良な者に対しては、課題を課し、時間外に補講等を行っている。また、平常試験の結果を成績評価に加味することで評価の機会を増やし、学習意欲の向上を図っている。欠席時間が多い学生（病気療養、体調不良を除く）、学業成績不振の学生に対しては、教員が当該学生へメールや電話をし、状況の把握と不安の解消に努め、授業への出席を促す。それでも改善されない場合、教員間で情報を共有しつつ、学生相談室や保護者と連携し、状況の改善に努めている。	A	素晴らしい取り組みである。	・細部まで取り組み、忙しい中、最善を尽くしている。継続は大変だと思いが続けてほしい。 ・平常試験により常に学生の理解度を把握できている。	特になし	学生の授業の理解度を把握して補講を行うことは非常に良いと思う。	A
評価項目③ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	専任教員が教育者としての資質向上を図るための基本的な知識、技術、態度、学生指導とコーチング、研究技法の基礎医療倫理などを修得するために全国歯科技工士教育協議会主催の講習会に参加している。また、多数の授業科目で実務経験豊富な歯学部教員と非常勤講師が授業に参加している。	A	最善を尽くしていると思う。	・学部教員、非常勤講師など他校になかなかできない取り組みをしている。更に続けてほしい。 ・歯学部附属の専門学校として、優秀な講師が充実している。	特になし	特になし	A
評価項目④ 【重点目標】 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	単位制カリキュラムへの完全移行に伴い、第一学年から第三学年までのカリキュラムを体系的に編成した。実習において、第一学年では器具や材料の使用方法、歯の形や基礎的な補綴装置を製作している。第二学年では、基礎から応用へ段階的に難度の高い補綴装置を製作している。第三学年では、臨床的な模型を用い補綴装置を製作し、技術の向上と国家試験合格を目途としたカリキュラムを編成している。講義においては、第一学年では、材料の基礎や歯科技工学概論など基礎的な授業を多く行い、第二学年では、専門的な授業を中心に、就職活動の意識づけとして現職で活躍している歯科技工士による講義を開講している。第三学年では歯科技工学演習を開講し、国家試験対策を行っている。	B	非常に良い。	・3年間の授業時間を有効なカリキュラムにしている。 ・基礎から応用へのカリキュラムが実習を含め体系的に編成されている。	カリキュラムの中に歯科用ソフトの基礎知識及び習得する授業を入れてほしい。	・昼間課程二年制への改組が望まれる。 ・学校案内2022の中の「1日の流れ」の生活を良しとする方は少ないのではと危惧している。 ・歯科技工の技術職としての魅力を学生に伝えて欲しい。	A